

保 育 科

保育科の教育・研究の目的について

保育科の教育・研究の理念と目的、育成する人材像

人間形成の基礎は、乳幼児期に培われます。昨今の保育所や幼稚園への就園率の高まりから、家庭で保護者が子どもと関わるのと同様に、この時期に保育者がどのように、どれくらいかかわったかが子どもの将来を決定するといっても過言ではありません。

保育科では、近畿大学学園を貫く教育方針に基づき、子ども、保護者、同僚に愛され、信頼され、尊敬される保育者の育成をめざしています。こうした理念を実現するために、「子どもが好き」という純粋な気持ちを土台としながら、学生生活での様々な経験を通して、温かい人間性を涵養すること、さらに、保育に関する専門知識を理解し、保育士、幼稚園教諭など子どもと関わる職業につく上で必要不可欠な様々な保育技術を習得することを目的として設定しています。

また、以下のような保育の今日的課題に対応するために、専門性が高く、資質の高い保育者養成という社会的な要請にも応えようとしています。

- 1 子どもを取り巻く環境の変化に伴う「子どもの育ちの変化」
- 2 社会や経済の急激な変化や男女共同参画社会の実現の中で生じた保育ニーズの多様化

したがって、保育科では、「乳幼児期の発達課題、生活課題に応じた保育を構想し、実践する力」、さらに、「子どもとの関係だけでなく、保護者、地域社会などとの良好な関係を構築する力」を身につけ、保育者という仕事に対するやりがいや責任感を感じ取れる、温かい人間性あふれる人材を育成し、地域における子育て支援の場に送り出すことに全力で取り組んでいます。

保育科の学習・教育目標

先に示した人材を育成するために、以下のような教育目標を設定しています。

- 1 今日的課題に対応した保育を構想し、実践する力

子どもの発達、児童福祉施設・幼稚園の機能や保育者の職務、さらに、保育内容や保育方法などに関する専門的知識を理解すること、さらに、音楽遊び、造形遊び、運動遊びなどの遊びのレパートリーを広げるとともに、子どもの発達段階に応じた実践的指導力を習得することを目標としています。

- 2 保護者、地域社会との良好な関係を構築する力

他者、あるいは社会と良好な関係を築くためには、自分自身について理解しておく必要があります。したがって、様々な授業を通して、自らの特徴や適性を把握しながら、自分の対人関係のあり方を見つめ直していきます。こうした土台に基づいて、子育て環境の変化やそれに伴う多様な保育サービス（育児相談、障害児保育、地域子育て支援センターなど）の実態について理解し、家庭や地域社会との連携を視野に入れた保育を推進していくための実践的指導力を習得することを目標としています。

こうした教育目標の実現に向け、日々の学習を通して、「保育の今日的な課題」に対し、自ら関心を向け、自分で考え、情報を収集し、自分で判断し、自分で行動できる力を兼ね備えた保育者としての力量を育てることを見通しながら、教員スタッフは学生諸君をサポートしています。

カリキュラム編成上の特色

教育理念、目標の実現に向け、かつ幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得に向けたカリキュラムを編成し、履修指導を行っています。その際、理論的な学習の教授に偏ることなく、実践的、体験的な活動を取り入れ、保育に関する理論と実践を統合しながら展開する授業スタイルを重視しています。

さらに、隣接する附属幼稚園と以下のような連携を図りながら、専門的知識を実践の場で検証し、統合し、さらに応用していくことのできる力を強化する場を提供しています。

1 附属幼稚園実習の通年、終日開講

1年次後期から2年次前期の期間、週1回の頻度で附属幼稚園での終日実習を実施しており、園児の登園から降園まで、1日を通して子どもと触れ合い、「子ども」「保育」を実感するのみでなく、その様な体験を振り返り、教室での授業の理解がより一層深まることを期待しています。さらに、運動会や生活発表会など様々な年間行事へ参加することで、通常の教育活動以外の多様な体験をも積むことができます。また、「預かり保育」、「3歳未満児入園」、「地域の未就園児への施設開放」といった地域の幼児教育のセンターとしての事業に対する教師の役割についての理解を深めることも可能になります。

2 附属幼稚園園児との交流型参加授業の開講

運動遊びや自然遊びなど子どもの遊びを扱う授業では、本学教員と附属幼稚園教諭とが連携を図り、また学生と園児が時間と場所を共有し展開する交流型参加授業を行っています。発達段階など子どもの実態に応じ、子どもの目線で保育計画を作成する力や指導・援助する実践的な指導力を向上させることを期待しています。

その他の特色

1 総合発表会における教育成果の公開

短期大学2年間の学習の成果を広く一般市民へ公開する場として総合発表会を開催しています。保育の今日的課題に対しゼミナール形態で取り組んだ学習（研究）成果のパネル展示や、音楽表現、造形表現、身体表現に関する授業成果を活かしながら、プロジェクト活動として取り組んだオペレッタの公演などを行っています。

2 高大連携教育の推進

筑豊地区唯一の保育系学科をもつ短期大学として人的・物的資源を活かし、筑豊地区の高校を対象に、短期大学での模擬授業、附属幼稚園での実習体験、高校における出前授業などのプログラムを積極的に提供し、保育系大学・短期大学への進学を希望している高校生の意欲を喚起しています。

保育科の教育方針について

保育科では、近畿大学の建学精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、子ども、保護者、同僚に愛され、信頼され、尊敬される保育者の養成をめざしています。こうした理念を実現するために、以下の3つの方針を定めています。

○アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

保育科は、子どもを取り巻く環境の変化に伴う「子どもの育ちの変化」や「保育ニーズの多様化」に対応できる人材育成をめざし、次のような人を求めています。

1. 本学科での履修に必要な基礎学力を有する人
2. 「子どもが好き」という純粋な気持ちを持っている人
3. 温かい人間性の涵養に意欲を持つ人
4. 保育に関する専門知識の理解に意欲を持つ人
5. 保育者（保育士・幼稚園教諭）として必要な保育技術を習得したい人

○カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

保育科は、本学の建学精神の実現に向け、かつ幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得をめざすカリキュラムを編成しています。その際、理論的な学習の教授に偏ることなく、実践的、体験的な活動を取り入れ、保育に関する理論や実践の統合を重視しています。

1. 幅広い教養と社会人としての基本的なコミュニケーション能力の習得をめざします。
2. 子どもの理解に必要な心理・発達論的な基礎知識の習得をめざします。
3. 保育内容や保育方法などに関する専門的知識や実践的指導力の習得をめざします。
4. 音楽・造形・言葉・運動遊びなどの保育者としての表現技術の向上をめざします。
5. 附属幼稚園実習や様々な行事の参加を通して子どもの理解を深めます。
6. 保育現場で必要な教材の開発・作成・分析能力の習得をめざします。
7. 保育の今日的課題を理解し、家庭や地域社会との連携に必要な「知識を身につけ、活用できる」能力の習得をめざします。
8. キャリア教育を通して保育者としての使命感や責務、教育的愛情について省察します。

○ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

保育科は、カリキュラムポリシーに基づいた教育を通して、以下の能力を身につけ、かつ、学則が定める単位を修得することにより、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得および学位授与を認めます。

1. 社会的貢献・奉仕の基礎となる学力とコミュニケーション能力
2. 幼児教育の今日的課題に対応した保育を構想し、実践する能力
3. 保護者や地域社会との良好な関係を構築する能力
4. 子どもの理解に関する専門的知識を教育の現場で検証・統合し、応用できる能力

幼稚園教諭免許状・保育士資格取得履修表

授 業 科 目	単 位 数	形 態	卒 業 必 修	学 科 指 定	幼稚園教諭免許取得		保育士資格取得		選 択	開講時期				
					幼免必修	幼免選択	保資必修	保資選択		一年	一年	二年	二年	
										前期	後期	前期	後期	
共通教育科目	英会話Ⅰ	2	演習			○		○						
	生涯スポーツ	1	実技			○		○						
	健康科学	1	講義			○								
	日本国憲法	2	講義			○			○					
	情報処理入門	2	演習			○			○					
	国語表現法	2	講義						○					
	自然環境	2	講義						○					
	生命科学	2	講義						○					
	キャリアデザインⅠ	2	講義		○									
専門教育科目	音楽(声楽)	2	演習	○		○		○						
	図画工作	2	演習	○		○		○						
	幼児体育	2	演習	○		○		○						
	教育原理	2	講義	○		○		○						
	教育心理学	2	演習	○		○		○						
	健康(指導法)	1	演習	○		○		○						
	人間関係(指導法)	1	演習	○		○		○						
	環境(指導法)	1	演習	○		○		○						
	言葉(指導法)	1	演習	○		○		○						
	造形表現(指導法)	2	演習	○		○		○						
	教職概論	2	講義			○								
	教育相談	2	講義			○								
	教職実践演習	2	演習			○								
	保育実践演習	2	演習					○						
	保育科基礎演習	2	演習		○									
	教育実習事前事後指導	1	演習			○								
	教育実習	4	実習			○								
	音楽表現(指導法)	1	演習	○		○			○					
	劇あそび(指導法)	1	演習			○			○					
	教育課程総論	2	講義			○		○						
	教育方法論	2	演習			○								
	社会福祉	2	講義					○						
	相談援助	1	演習					○						
	児童家庭福祉	2	講義					○						
	保育原理	2	講義					○						
	社会的養護	2	講義					○						
	保育者論	2	講義					○						
	発達心理学	2	講義					○						
	子どもの保健Ⅰ	4	講義					○						
	子どもの保健Ⅱ	1	演習					○						
	子どもの食と栄養	2	演習					○						
	家庭支援論	2	講義					○						
	乳児保育	2	演習					○						
	障害児保育	2	演習					○						
	社会的養護内容	1	演習					○						
	保育内容総論	1	演習					○						
	保育相談支援	1	演習					○						
	言語表現	1	演習					○						
	保育実習事前事後指導Ⅰ	2	演習					○						
	保育実習事前事後指導Ⅱ	1	演習						○					
保育実習事前事後指導Ⅲ	1	演習						○						
保育実習Ⅰ	4	実習						○						
保育実習Ⅱ	2	実習						○						
保育実習Ⅲ	2	実習						○						
多文化共生保育	2	講義						○						
乳幼児心理学	2	講義						○						
青年心理学	2	講義						○						
児童文化	1	演習						○						
ピアノⅠ	1	演習						○						
ピアノⅡ	1	演習						○						
ピアノⅢ	1	演習						○						
音楽(器楽)	1	演習				○		○						
実技演奏	1	演習						○						
計	107		17	4	41	1	66	14以上	0					

- (注1) 保育実習事前事後指導Ⅱ、保育実習事前事後指導Ⅲは、2年次前期に必ずどちらかを選択して履修すること。
 保育実習Ⅱ(保育所)、保育実習Ⅲ(施設)は、2年次後期に必ずどちらかを選択して履修すること。
 (注2) 保育士資格の取得に必要な単位については、P85～P86を参照すること。
 (注3) 幼稚園教諭免許状の取得に必要な単位については、P88を参照すること。

保育士資格取得に関する履修モデル

開講	共通教育科目 (必修)	共通教育科目 (選択必修)	専門教育科目 (必修)	専門教育科目 (選択必修)
1 年 前 期	英 会 話 I	情 報 処 理 入 門	社 会 福 祉	青 年 心 理 学
	生 涯 ス ポ ー ツ	国 語 表 現 法	教 育 心 理 学	音 楽 表 現 (指 導 法)
	健 康 科 学	自 然 環 境	家 庭 支 援 論	ピ ア ノ I
			保 育 内 容 総 論	
			健 康 (指 導 法)	
			環 境 (指 導 法)	
			造 形 表 現 (指 導 法)	
1 年 後 期	英 会 話 I	日 本 国 憲 法	教 育 原 理	乳 幼 児 心 理 学
	生 涯 ス ポ ー ツ	情 報 処 理 入 門	社 会 的 養 護	ピ ア ノ II
	健 康 科 学	生 命 科 学	教 育 心 理 学	実 技 演 奏
			造 形 表 現 (指 導 法)	
			音 楽 (声 楽)	
			言 語 表 現	
			保 育 実 習 I	
2 年 前 期			保 育 実 習 事 前 事 後 指 導 I	
			相 談 援 助	音 楽 (器 楽)
			発 達 心 理 学	ピ ア ノ III
			子 ども の 保 健 I	
			教 育 課 程 総 論	
			人 間 関 係 (指 導 法)	
			言 葉 (指 導 法)	
			乳 児 保 育	
			障 害 児 保 育	
			社 会 的 養 護 内 容	
			図 画 工 作	
			幼 児 体 育	
			保 育 実 習 I	
2 年 後 期			保 育 実 習 事 前 事 後 指 導 II	
			保 育 実 習 事 前 事 後 指 導 III	
			保 育 実 践 演 習	
			保 育 原 理	多 文 化 共 生 保 育
			児 童 家 庭 福 祉	劇 あ そ び (指 導 法)
			保 育 者 論	児 童 文 化
			子 ども の 保 健 I	
			子 ども の 保 健 II	
			子 ども の 食 と 栄 養	
			乳 児 保 育	
		障 害 児 保 育		
		保 育 相 談 支 援		
		図 画 工 作		
		幼 児 体 育		
		保 育 実 習 II		
		保 育 実 習 III		
		保 育 実 践 演 習		

保育士資格証明書取得に必要な授業科目

本学保育科は、保育士を養成する学校として厚生労働省より認可を受けています。保育士資格証明書を取得しようとする学生は、児童福祉法施行規則に定められた所定の単位を修得しなければなりません。

〈必修科目〉

専門教育科目59単位、基礎科目として共通教育科目4単位、合計63単位が必要です。

学 問 領 域		単 位
系 列	教 科 目	
保育の本質・目的に関する科目	保 育 原 理	2
	教 育 原 理	2
	児 童 家 庭 福 祉	2
	社 会 福 祉	2
	相 談 援 助	1
	社 会 的 養 護	2
	保 育 者 論	2
計 13単位		
保育の対象の理解に関する科目	発 達 心 理 学	2
	教 育 心 理 学	2
	子 ども の 保 健 I	4
	子 ども の 保 健 II	1
	子 ども の 食 と 栄 養	2
	家 庭 支 援 論	2
計 13単位		
保育の内容・方法に関する科目	教 育 課 程 総 論	2
	保 育 内 容 総 論	1
	健 康 (指 導 法)	1
	人 間 関 係 (指 導 法)	1
	環 境 (指 導 法)	1
	言 葉 (指 導 法)	1
	造 形 表 現 (指 導 法)	2
	乳 児 保 育	2
	障 害 児 保 育	2
	社 会 的 養 護 内 容	1
	保 育 相 談 支 援	1
計 15単位		
保育の表現技術	音 楽 (声 楽)	2
	図 画 工 作	2
	幼 児 体 育	2
	言 語 表 現	1
計 7単位		
保 育 実 習	保 育 実 習 I	4
	保 育 実 習 II	2
	保 育 実 習 III	2
	保 育 実 習 事 前 事 後 指 導 I	2
	保 育 実 習 事 前 事 後 指 導 II	1
	保 育 実 習 事 前 事 後 指 導 III	1
計 9単位		
総 合 演 習	保 育 実 践 演 習	2
	計 2単位	
基 礎 科 目	英 会 話 I	2
	生 涯 ス ポ ー ツ	1
	健 康 科 学	1
計 4単位		
合計 63単位以上		

〈選択科目〉

以下の表の専門教育科目より8単位以上、基礎科目として共通教育科目より6単位以上、合計14単位以上が必要です。

専門教育科目					
学 問 領 域		単 位	選 択	開 講 時 期	備 考
系	列 教 科 目				
保育の本質・目的の理解に関する科目	児 童 福 祉 Ⅱ	2	8 単 位 以 上		非 開 講
	多文化共生保育	2		2年後期	
保育の対象の理解に関する科目	乳 幼 児 心 理 学	2		1年後期	
	青 年 心 理 学	2		1年前期	
保育の内容・方法に関する科目	音楽表現(指導法)	1		1年前期	幼免必修
	劇あそび(指導法)	1		2年後期	幼免必修
	児 童 文 化	1		2年後期	
保 育 の 表 現 技 術	音 楽 (器 楽)	1		2年前期	
	ピ ア ノ Ⅰ	1		1年前期	
	ピ ア ノ Ⅱ	1		1年後期	
	ピ ア ノ Ⅲ	1	2年前期		
	実 技 演 奏	1	1年後期		

共通教育科目					
学 問 領 域		単 位	選 択	開 講 時 期	備 考
系	列 教 科 目				
基 礎 科 目	日 本 国 憲 法	2	6 単 位 以 上	1年後期	幼免必修
	情 報 処 理 入 門	2		1年通年	幼免必修
	国 語 概 論	2			非 開 講
	国 語 表 現 法	2		1年前期	
	基 礎 法 学	2			非 開 講
	地 域 社 会 論	2			非 開 講
	自 然 環 境	2		1年前期	
	生 命 科 学	2		1年後期	
	人 体 生 理 学	2			非 開 講

保育実習参加資格について

保育士資格取得のためには、「保育実習Ⅰ」（保育所・施設）と「保育実習Ⅱ」（保育所）あるいは「保育実習Ⅲ」（施設）を履修しなければならない。これらの「保育実習」の参加資格については、以下の項目を考慮して判定を行う。

- 「保育実習事前事後指導Ⅰ」「保育実習事前事後指導Ⅱ」「保育実習事前事後指導Ⅲ」の履修と課題の提出（5分の4以上出席）、及び保育実習ガイダンスへの出席。
- 2-1. 1年後期に行う「保育実習Ⅰ」については、1年前期の以下の保育士資格必修科目のうち、不可が2科目以下であること（社会福祉・家庭支援論・保育内容総論・健康（指導法）・環境（指導法））。また、以下の後期及び通年科目が修得見込みであること（英会話Ⅰ・生涯スポーツ・健康科学・教育原理・社会的養護・教育心理学・造形表現（指導法）・音楽（声楽）・言語表現・保育実習事前事後指導Ⅰ）。
- 2-2. 2年前期に行う「保育実習Ⅰ」については、1年前期の開講科目に加え、2-1の後期及び通年科目のうち、不可が2科目以下であること。
- 2-3. 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」については、2-2に加え、2年前期の保育士資格必修科目が修得見込みであること（人間関係（指導法）・教育課程総論・相談援助・発達心理学・社会的養護内容・言葉（指導法）・保育実習事前事後指導Ⅱ・保育実習事前事後指導Ⅲ）。
- 保育実習Ⅰの保育所・施設実習状況。
- 保育実習に必要な検査等の実施や書類の提出等を、期限内に行うこと。
- 保育士資格取得に対する意欲や、真摯な学業への取り組み。
- 実習継続が可能であると見込まれること。

以上の項目について、適宜学科で資格審査を行う。保育実習参加資格が認められなかった学生について、以後、上記の項目に関して著しく改善がみられる場合は、学科の再審査を経て次回の保育実習の参加を考慮する。

幼稚園教諭二種免許状取得に関する履修モデル

開講	共通教育科目	教職に関する科目	教科に関する科目
1年前期	英 会 話 I	教 職 概 論	音 楽 (声 楽)
	情 報 処 理 入 門	教 育 心 理 学	
	健 康 科 学	健 康 (指 導 法)	
	生 涯 ス ポ ー ツ	環 境 (指 導 法)	
		造 形 表 現 (指 導 法)	
		音 楽 表 現 (指 導 法)	
	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導		
1年後期	英 会 話 I	教 育 原 理	音 楽 (声 楽)
	日 本 国 憲 法	教 育 心 理 学	
	情 報 処 理 入 門	造 形 表 現 (指 導 法)	
	健 康 科 学	教 育 実 習	
	生 涯 ス ポ ー ツ		
2年前期		教 育 課 程 総 論	音 楽 (器 楽)
		人 間 関 係 (指 導 法)	図 画 工 作
		言 葉 (指 導 法)	幼 児 体 育
		教 育 方 法 論	
		教 育 実 習 事 前 事 後 指 導	
		教 育 実 習	
2年後期		劇 あ そ び (指 導 法)	図 画 工 作
		教 育 相 談	幼 児 体 育
		教 職 実 践 演 習	

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な授業科目

本学保育科は、幼稚園教諭（二種免許状）を養成する学校として文部科学省より認可を受けています。幼稚園教諭二種免許状を取得しようとする学生は、教育職員免許状および同法施行規則に定められた所定の単位を修得しなければなりません。

〈免許法施行規則に定める科目〉

免許法施行規則に定める科目	単位数	左記に対応する開講科目	単位数	備考
外国語コミュニケーション	2	英 会 話 I	2	
日 本 国 憲 法	2	日 本 国 憲 法	2	
情 報 機 器 の 操 作	2	情 報 処 理 入 門	2	
体 育	2	健 康 科 学	1	
		生 涯 ス ポ ー ツ	1	
合 計	8	合 計	8	

〈免許法施行規則に定める教科に関する科目〉

免許法施行規則に定める科目	単位数	左記に対応する開講科目	単位数	備考
教 科 に 関 する 科 目	4	音 楽 (声 楽)	2	卒業必修
		音 楽 (器 楽)	1	
		図 画 工 作	2	卒業必修
		幼 児 体 育	2	卒業必修
		国 語	2	
合 計	4	合 計	6以上	

〈免許法施行規則に定める教職に関する科目〉

免許法施行規則に定める科目	単位数	左記に対応する開講科目	単位数	備考
教職の意義などに関する科目	2	教 職 概 論	2	
教育の基礎理論に関する科目	4	教 育 原 理	2	卒業必修
		教 育 心 理 学	2	卒業必修
教育課程及び指導法に関する科目	12	教 育 課 程 総 論	2	
		健 康 (指 導 法)	1	卒業必修
		人 間 関 係 (指 導 法)	1	卒業必修
		環 境 (指 導 法)	1	卒業必修
		言 葉 (指 導 法)	1	卒業必修
		造 形 表 現 (指 導 法)	2	卒業必修
		音 楽 表 現 (指 導 法)	1	卒業必修
		劇 あそび (指 導 法)	1	
教 育 方 法 論	2			
生徒指導、教育相談、及び進路指導に関する科目	2	教 育 相 談	2	
教 育 実 習	5	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導	1	
		教 育 実 習	4	
教 職 実 践 演 習	2	教 職 実 践 演 習	2	
合 計	27	合 計	27	

教育実習の参加資格について

幼稚園教諭二種免許状取得のためには、「教育実習」（附属幼稚園実習・外部幼稚園実習）を履修しなければならない。「教育実習」の参加資格について、以下の項目を考慮して判定を行う。

- 「教育実習事前事後指導」の履修と課題の提出（5分の4以上出席）。
- 2-1.（附属幼稚園実習）1年前期の以下の教職開講科目のうち、不可が2科目以下であること（教職概論・健康（指導法）・環境（指導法）・音楽表現（指導法））。
- 2-2.（外部幼稚園実習）1年前期の上記科目に加え、以下の通年及び後期の開講科目のうち、不可が2科目以下であること（英会話 I ・日本国憲法・情報処理入門・健康科学・生涯スポーツ・音楽（声楽）・教育原理・教育心理学・造形表現（指導法））。
- 外部幼稚園実習に関しては、附属幼稚園実習の状況を考慮する。
- 免許取得に対する意欲や真摯な学業への取り組み。
- 実習期間を継続して履修できる心身の健康。

以上の項目について、適宜学科で資格審査を行う。教育実習参加資格が認められなかった学生について、上記の項目に関して著しく改善がみられる場合は、学科の再審査を経て教育実習の参加を考慮する。

講義概要を利用するにあたって

この講義概要（シラバス）は、開講される科目名、授業の担当教員名、到達目標、授業の概要、進行計画、テキスト・参考文献、単位認定条件等を詳細に示しています。

シラバスを活用して授業科目の内容を十分に理解して授業時間割を組み、授業に臨んでください。

1. シラバスは、生活福祉情報科共通教育科目・専門教育科目、保育科共通教育科目・専門教育科目の順で掲載されています。
2. 履修科目は、取得希望する免許・資格により異なるので、各学科の履修表を参照してください。
3. 履修する科目は、講義概要・授業時間割を見ながら履修届を作成し、登録してください。履修登録をしていない科目を受講しても単位は認定されません。
4. 試験方法としては定期試験、小テストなどで行います。成績評価基準については基本的に試験と出席状況などを総合的に評価しますが、授業の形態によっては毎回の授業での発表と課題提出など、科目によって異なります。また、科目担当者によっても異なるので各科目のシラバスを参照してください。

【参 考】

通 年 : 1年間を通じて講義を行う授業科目

前 期 : 前学期のみ講義を行う授業科目

後 期 : 後学期のみ講義を行う授業科目

集中講義 : 夏季及び冬季休暇中に集中的に講義を行う授業科目

講 義 : 教員が学生に対し、当該科目の専門的な知識・内容などについて説明する授業形式

演 習 : 教員の講義とともに、学生も討議・研究発表等を行いつつ指導を受ける授業形態

実 技 : 学んだ知識をもとに演技を行う授業形態

実 習 : 学んだ知識をもとに実施について学習する授業形態